

あなたはなぜ、議員になったのか この問いにどう答えるだろう

議会技術研究会（会員一三九人、二〇一九・一・一現在）では今年七月二七日、札幌市で「私はなぜ議員になったのか」をテーマにフォーラムを開催した。約六〇人の参加者数ではあったが、各自自治体の初議会後の活動展開をすすめるにあたり有意義で濃密な内容であった。

北海道栗山町議会基本条例の制定を機に全国に広がった議会改革は一年を経て第二ステージへと移行し、政策議会への構築へと向かっている。しかし、その一方、全国各地で起きている議員のなり手不足の現象は深刻な問題である。これは低い報酬額にも問題があるが、議員の役割と存在意義を示しきっていないという問題を抱えている表れでもある。

当研究会では、この大きな課題を無視することなく、昨夏に開催した「自治体議員をめざす人のための自治講座」から今年一〇月一二日に開催した「新人議員講座―財政に強い議員になろう」を含め、連続性を持ちながら議会への住民のかかわり方の研究と新人議員研修をすすめてきた。「私はなぜ議員になったのか」のフォーラム開催の狙いは、四月の統一地方選挙で初当選した五名の新人議員から立候補の動機や抱負を聞き、北海道内の自治体議会において、なり手不足問題を解消するための議会改革へ結びつけることにあった。

登壇した五名の新人議員はそれぞれに「J」

ターンの経験があり、市民としての活動をベールに議会へ接近し、そして立候補して議会に飛び込んできた。登壇した議員のみずみずしい感性と語り口は聴衆を惹きつけるものがあつた。橋場利勝元栗山町議会議長は「議会が変わればまちが変わる」と題した講演で熱いエールを送り、さらに連続八期、三二年間にわたり活動をつづけた松山哲男前登別市議は政策面や財政面に強い議員となるよう力づけた。

当研究会が議員のなり手不足の解消のために提唱しているのは、議会改革における市民基盤の強化である。改革に向かう議会の姿を市民に伝え、市民の議会観を変えていくことである。議会・議員だけで改革をすすめるのではなく、議会モニター制度や議会改革諮問委員会の設置、議会フォーラムなどの開催によって、議会への市民参加を活性化させながらともに考える市民の数を増やし、議員選挙に立候補しやすくなる環境づくりを図っていくことである。いわば議会の改革現場へ市民参加をすすめることが議員のなり手不足問題の解消の一手になるという理念である。今回の議員選挙において、議会モニターから議員に初当選の結果を残した斜里町議会、芽室町議会、浦幌町議会はその筆頭といえるであろう。

当研究会の神原勝顧問（北海道大学名誉教授）はいう。「改革一〇年をへて、今日の議会は改革

の進捗をめぐって三分化している。果敢に改革をすすめて全国の議会改革を先導する先駆議会、議会基本条例は制定しても実行が伴わないような居眠り議会、旧慣習に浸ったままの寝たきり議会。およその見当で一割、二割、七割である。三分化はしていても、努力次第でランクは上がることから遅れを取り戻せない絶対格差ではなく、改革意欲の有無によって生じた当面の時間格差とみておきたい」。

斜里町議会、浦幌町議会は、この四年間、議員のなり手問題も掲げながら議会改革全般に懸命に取り組み、なり手不足を解消し大きな成果を挙げ、遂に先駆議会となった。議会改革策に市民との距離を縮める活動を掲げつづけてきたことが実を結んだ。こうした改革のもとで誕生した新人議員は、市民感覚をバネにして臆せずに議員活動にまい進することが次なる使命である。議会への市民参加の必要性に覚醒した議会は、本格的な議会改革に着手していける。

「議会が変わればまちが変わる」という言葉はすでに標準化の域にある。そして、研究会フォーラム「私はなぜ議員になったのか」を終えて、私は「まちを変えるために議会を変え、議会を変えるために議員となった」という印象を覚えた。

今後の四年間の議会活動において、市民を中心に据えながら多種多様な取組が展開されていくことを期待したい。そして新人議員のみならず、全ての議員はいつも次の問いに答えられなければならないと思うのだ。

「あなたはなぜ、議員になったのか」

へにしな じゅん・議会技術研究会共同代表

前北海道芽室町議会議事務局長